

# 気候変動は、どうして止めなくてはいけないの？

## ～気候変動が私たちに起こす変化～

人間の暮らしの中で出される二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)などの温室効果ガスの量が増えることで、地球の気温が上昇するだけでなく、地球全体の気候を大きく変える「気候変動」を引き起こします。今や世界全体で大変な問題となっていますが、「気候変動」はどうして止めなくてはならないといわれているのでしょうか。人間の暮らしから出るCO<sub>2</sub>などを減らさず、気候変動が大きく進んでしまうと、私たちの暮らしや地球の環境にさまざまな悪い変化をもたらします。それはどのような変化なのでしょう。

### 3°C上昇で



地球でくらす多くの生きものが、住みかや食べ物が減ってしまうなどの理由で絶滅の危機にさらされます。

2011～2020年の世界の平均気温は、1850～1900年に比べてすでに1.09°C高くなっており、この値が3°Cになると、何万種もの生きもののうちの最大29%の種が絶滅の危機にさらされるといわれています。

例えば、絶滅の危機にあるホッキョクグマは、海の氷がとけることで、氷上でアザラシなどの獲物を狩ることができず、栄養が不足して生きていくことが難しくなります。また、ウミガメ類は、産卵場所(砂浜)の温度が上がると、オスに比べてメスが産まれるため、オスとメスの数のバランスが変わり、長く子孫を残していくことが難しくなるといわれています。

## 最大29%の種が絶滅の危機

お米や野菜、果物は、育ちが悪くなり、味や栄養が落ちたり、収穫できる量が減ったりと考えられています。

また、牛や豚、鶏などが、強い暑さによるストレスで成長しづらくなり、お肉や牛乳、卵などの生産量が減ったり、これらの栄養が落ちてしまうことが心配されています。魚についても、海の環境が変わってしまうことで、今までとれた種類や量が減ってしまうともいわれています。

さらに世界では、干ばつや洪水などにより、食料が不足すると予測されています。日本は、パンやみそ、しょうゆなどの原料である小麦や大豆をはじめ、多くの食べ物を輸入に頼っていることから、世界の食料不足は日本にとっても大きな問題となります。

### 変化する食料事情



### 食べ物の不安がつきまとう

### 熱中症・デング熱・メンタルヘルス



## 強い暑さが健康をおびやかす

強い暑さは、人間が活動しづらい環境をつくり、命にも関わる熱中症や感染症などの病気の原因となります。

強い暑さの日が増えると、東京では昼間に外で働ける時間が減るといわれており、さらに、熱中症などにより命を落とす危険が増加するとも予測されています。

この他にも「デング熱」という病気を広める蚊が増えたり、強い暑さで人の心の病気(メンタルヘルス)になる危険が高まるなど、私たちの健康をおびやかすといわれています。

## すでに起きている深刻な事態①～熱中症～

記録的酷暑となった平成30年。7月23日に埼玉県熊谷市で初めて日本歴代1位となる41.1°Cを観測し、10地点で40°C超えを記録しました。

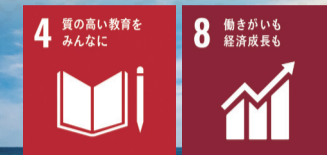
また、熱中症により病院などに運びこまれた人の数は、なんと約9万5,000人！熱中症による死者数は1,500人を超え、ここ数年大きく下がっていません。気候変動は命に関わる問題なのです。



SDGs(持続可能な開発目標)とは、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。目標13「気候変動に具体的な対策を」では、気候変動やその被害を減らすことを目標としています。



### 乱れる春夏秋冬



### 失われる文化

四季のリズムが乱れ、春の桜や秋の紅葉といった、季節の美しい花々の色づく時期が、早まったり遅れたりしています。また、海面が上がったり、雪の降る地域が狭まることで、砂浜や雪山が減るともいわれています。

季節の花々や砂浜、雪山などは、四季をもつ日本の文化に深くつながっていて、気候変動によりこれらの時期や量が変わると、昔から行われてきたお祭りなどの行事や、お花見、海水浴、スキーなどの楽しみといった、私たちの暮らしの豊かさが失われるおそれがあります。

傘がまったく役に立たず、マンホールなどから水があふれる(冠水)危険のある「滝のように降る雨(1時間降水量50mm以上)」が2倍以上増えると予測されています。また、台風の本数は減るものの、非常に強い台風が増えるともいわれています。

強い大雨や台風は、河川の増水による洪水などの災害の原因となり、私たちの生活や命までもおびやかします。

狛江市は、北に野川、南に多摩川と河川に挟まれており、これらの河川で洪水が発生すると、大きな被害が生じるおそれがあります。

### 強い台風が増大 滝のように降る雨は2倍に



## 高まる災害のおそれ

## すでに起きている深刻な事態②～災害～

令和元年房総半島台風(令和元年9月)では、暴風により電柱が壊れるなどして非常に広い区域で停電が発生し、千葉県では復旧までに2週間以上かかりました。長く電気が止まったことで生活が大きく不便になり、エアコンなどが使えなくなったことで、多くの熱中症患者が発生しました。

また、令和元年東日本台風(令和元年10月)は、東日本の広域に多くの被害をもたらしました。狛江市でも、住宅の浸水や一部道路の冠水、停電など、大きな被害が発生しました。



## みんなで取り組めばまだ間に合う！

いかがでしたか？気候変動がこのまま進むと、私たちの暮らしに対し、時に命がおびやかされるほどの大きな変化をもたらすことがわかったと思います。しかし、これは気候変動対策に取り組まなかった場合の話です。つまり、みんなで対策に取り組めばまだ間に合うのです。気候変動の進行を止めるためには、原因といわれるCO<sub>2</sub>などの温室効果ガスが私たちの暮らしから出される量を減らす必要があります。前号(令和4年2月号)のこまeco通信では、CO<sub>2</sub>を減らす身近な取組みを紹介しています。ぜひそちらも参考に、できることから取り組みましょう！



(出典)  
・IPCC AR6 WG1 報告書 SPM 暫定訳(文部科学省及び気象庁)  
・IPCC AR6 WG2 報告書 SPM 暫定訳(環境省)  
・気候変動影響評価報告書 総説(環境省)  
・地球温暖化予測情報 第9巻(気象庁)